

12.8 (日)

9:00 - 16:20

受付開始時間 8:30

Practical Day

◇ 実用的知識や考えを身につける 1 日

Room	509 【席数 88 名】	510 【席数 132 名】	104 【席数 84 名】
8:30-	受付開始		
テーマ	学習困難・SENS 講習 学習に困難のある子どもを理解し 支援する技術	学び 今の教育の良い点, 変えるべき点	働き 働きかたの変革
9:00- 10:30	1-1・2 学習に遅れのある子どもの 理解と評価 河野 俊寛 (金沢星稜大学) * S.E.N.S 講習をご希望の方は、 午前全ての時間を受講することで、 ポイントが付与されます。	2-1 特別支援教育の指導目標は 今のままでいいの？ ～通常級に返す実践～ 井上 賞子 (松江市立意東小学校)	3-1 もし企業に就職しないという 選択肢をとったら職業訓練は どう変わるか？ 近藤 武夫 (東大先端研)
10:40- 12:10		2-2 特別支援教育の指導目標は 今のままでいいの？ ～生活に結びつく実践～ 井上 賞子 (松江市立意東小学校)	3-2 教育の中でキャリア教育はどう 行われるべきか？ 近藤 武夫 (東大先端研)
	【午前】 S.E.N.S ポイント対象セミナー 1		
12:10- 13:10	Lunch Break	【企業セミナー】 特別教育現場における マイクロソフト製品の活用シナリオ 日本マイクロソフト 株式会社 * 昼食は各自お持ちの上参加ください	
13:10- 14:40	1-3・4 読み書きの苦手な子どもたちへの テクノロジーの活用 平林 ルミ (東大先端研) * S.E.N.S 講習をご希望の方は、 午後全ての時間を受講することで、 ポイントが付与されます。	2-3 IQ や心理検査による能力評価から 教師による介入・観察を活用した 教育へ 河野 俊寛 (金沢星稜大学)	3-3 働きにくい人の特徴と 彼らへのアドバイス 三宅 琢 (株式会社 Studio Gift Hands)
14:50- 16:20		2-4 養護学校の卒業生の今から 教育を考える 坂井 聡 (香川大学) 中邑 賢龍 (東大先端研)	3-4 産業医から見た組織の在り方 ～ユニークな人を束ねる組織とは!?～ 三宅 琢 (株式会社 Studio Gift Hands)
	【午前】 S.E.N.S ポイント対象セミナー 2		

555A 【席数 40 名】	501 【席数 84 名】	554 【席数 83 名】	555B 【席数 40 名】
----------------	---------------	---------------	----------------

受付開始

暮らし	コミュニケーション	能力観・多様性理解	オムニバス
教育・子育て・福祉に必須の最新のテクノロジー入門講座	AAC の理論を実践的に学ぶ	当事者との対話	公募セミナー 企業セミナー

<p>4-1 スマートスピーカなどのIoT</p> <p>巖淵 守 (早稲田大学)</p>	<p>5-1 コミュニケーションの食い違いを解く鍵 ～発達障害の人とのコミュニケーション～</p> <p>坂井 聡 (香川大学)</p>	<p>6-1 閉じ込め症候群から見たコミュニケーション</p> <p>飯田 真由美 (元出版社勤務) 中邑 賢龍 (東大先端研)</p>	<p>7-1 【自主セミナー】 通常学級におけるICT×インクルーシブ教育</p> <p>鈴木 秀樹 (東京学芸大学附属小金井小学校)</p>
<p>4-2 キャッシュレス時代の暮らし方</p> <p>巖淵 守 (早稲田大学)</p>	<p>5-2 知的障害の人とのコミュニケーションの糸口をどのように見つけるか?</p> <p>青木高光 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)</p>	<p>6-2 肢体不自由のある人の1日</p> <p>吉成 亜実・前川 智秋 奥山 俊博・赤松 裕美 (東大先端研)</p>	<p>7-2 【自主セミナー】 視線入力訓練アプリ EyeMoT によるアセスメントから学習利用までの活用テクニック</p> <p>伊藤 史人 (島根大学)</p>
<p>【企業セミナー】 プログラミング超入門!</p> <p>日本マイクロソフト 株式会社</p> <p>*昼食は各自お持ちの上参加ください</p>	<p>Lunch Break</p>		
<p>4-3 AI やビッグデータは我々の暮らしをどう変えるか?</p> <p>巖淵 守 (早稲田大学) ゲストスピーカ: 大島 友子 (日本マイクロソフト 株式会社)</p>	<p>5-3 自閉症の人とどのように会話の場を作るか?</p> <p>坂井 聡 (香川大学)</p>	<p>6-3 発達障害の人の生きにくさ</p> <p>岡 耕平 (滋慶医療科学大学院大学)</p>	<p>7-3 【企業セミナー】 魔法のプロジェクト</p> <p>ソフトバンク 株式会社</p>
<p>4-4 パソコンやスマホのアクセシビリティ</p> <p>巖淵 守 (早稲田大学) 奥山 俊博 (東大先端研)</p>	<p>5-4 重度重複障害のコミュニケーション能力を把握するには? ~新しいチェックリストの紹介~</p> <p>佐野 将大・谷口 公彦 (香川県立高松養護学校) 赤松 裕美 (東大先端研)</p>	<p>6-4 軽度知的障害の人の理解と苦しさ</p> <p>岡 耕平 (滋慶医療科学大学院大学)</p>	<p>7-4 【自主セミナー】 オンライン動画を活用した支援機器研修方法の開発</p> <p>金森 克浩 (日本福祉大学)</p>

Practical Day 概要・要旨

Practical Day では、それぞれのテーマに沿ってじっくり学んでいただけるセミナーです。7つのテーマに分かれた **教育や福祉の課題** から、自由に選択して受講ください。知識を得るだけになるのではなく、得た知識を活用できるようにするのがこのセミナーの目的です。

また、参考資料につきましては、当日販売を行っている **カンファレンステキスト (Proceedings)** に一部掲載されています。

9 : 00 - 10 : 30

<p>1-1 Room 509</p>	<p>学習に遅れのある子どもの理解と評価【前半】 【席数 88名】 河野 俊寛 (金沢星稜大学)</p> <p>学業不振が小中学生の自殺要因の1位である、というデータがあります。また、努力してもその成果が出てこない、学習性無力感に陥ってしまいやすくなります。このように、学習は子ども達の心理状態に大きな影響を与えます。学習に遅れが出てしまう原因はいくつもあります。このセミナーでは、その原因について説明し、その原因をどのように評価するのか、それぞれの原因別の学習支援等について説明します。</p> <p><small>*SENS 講習をご希望の方は、午前全ての時間を受講することで、ポイントが付与されます。</small></p> <p style="text-align: right;">【午前】 S.E.N.S ポイント対象セミナー 1</p>
<p>2-1 Room 510</p>	<p>特別支援教育の指導目標は今のままでいいのか？～通常級に返す実践～ 【席数 132名】 井上 賞子 (松江市立意東小学校)</p> <p>かつては、「特別支援学級に入ったら、もうみんなの中には戻れない」そんな暗黙の了解がありはしなかったでしょうか。もちろん、少人数の場が継続して必要な子もいます。しかし、「今は必要」だけどこで力をつけていくことで「みんなの中へ戻っていく」子ども達もたくさんいます。この時間は、そんな「特別支援学級から通常級に籍を変えた」子ども達の実際の事例を挙げながら、彼らが個別の場でどう学び、どうみんなの中へ戻っていったのかについてお伝えする中で、子ども達の選択肢を広げていくための取り組みについて参加の皆さんと考えていきたいと思えます。</p>
<p>3-1 Room 104</p>	<p>もし企業に就職しないという選択肢をとったら職業訓練はどう変わるか？ 【席数 84名】 近藤 武夫 (東京大学先端科学技術研究センター)</p> <p>「企業に就職し、終身雇用で長く勤めること」は、1970年代頃には、日本型の雇用の典型となっていたといわれます。一方で、障害のある人を代表として、多様な人々が日本型の働き方で「企業に就職する」ことには、未だ構造的な障壁があるのは事実です。その障壁がどこから来るのかについて歴史を振り返り、起業や多様な働き方を含めた今後について考えます。</p>
<p>4-1 Room 555A</p>	<p>スマートスピーカーなどの IoT 【席数 40名】 巖淵 守 (早稲田大学)</p> <p>スマホやパソコンはもちろんのこと、あらゆる機器がインターネットにつながる IoT (Internet of Things : モノのインターネット) の時代を迎えています。このセッションでは、その代表例として近年普及が進むスマートスピーカーを体験しながら、インターネットにつながるこれら新たな技術が、障害のある人の生活にどのように役立つかについて、利用例を交えて紹介します。</p>
<p>5-1 Room 501</p>	<p>コミュニケーションの食い違いを解く鍵 ～発達障害の人とのコミュニケーション～ 【席数 84名】 坂井 聡 (香川大学)</p> <p>話せるのに何だか意思疎通がうまく出来ない事を経験したことはないでしょうか？興味関心、注意、ワーキングメモリーの容量は人によって異なります。その認知特性に合わせたコミュニケーションが食い違いを防ぐポイントになります。</p>
<p>6-1 Room 554</p>	<p>閉じ込め症候群から見たコミュニケーション 【席数 83名】 飯田 真由美 (元雑誌編集者) 中邑 賢龍 (東京大学先端科学技術研究センター)</p> <p>意思はあるのに、動けない話せない状態になったらどうなるのでしょうか？閉じ込め症候群 (Locked in Syndrome) を経験し、回復した当事者の話を聞きながらコミュニケーションとは何かを考えてみましょう。</p>
<p>7-1 Room 555B 【自主セミナー】</p>	<p>通常学級における ICT×インクルーシブ教育 【席数 40名】 鈴木 秀樹 (東京学芸大学附属小金井小学校)</p> <p>本校では、通常学級の学校における ICT を活用したインクルーシブ教育の実現を目指して研究・実践を積み重ねている。何らかの困難を抱えていて特別な支援を必要とする児童への個別支援、及びそうした児童が在籍するクラスにおけるインクルーシブ教育の発想に基づいてデザインされた授業実践を進める上での効果的な ICT 活用について紹介すると共に、実際に機器を操作するハンズオンを実施して理解を深める。</p>

10 : 40 - 12 : 10

1-2 Room 509	学習に遅れのある子どもの理解と評価【後半】 【席数 88 名】 河野 俊寛 (金沢星稷大学) 学業不振が小中学生の自殺要因の1位である、というデータがあります。また、努力してもその成果が出てこない、学習性無力感に陥ってしまいやすくなります。このように、学習は子ども達の心理状態に大きな影響を与えます。学習に遅れが出てしまう原因はいくつもあります。このセミナーでは、その原因について説明し、その原因をどのように評価するのか、それぞれの原因別の学習支援等について説明します。 *SENS 講習をご希望の方は、午前全ての時間を受講することで、ポイントが付与されます。 【午前】S.E.N.S ポイント対象セミナー 1
2-2 Room 510	特別支援教育の指導目標は今のままでいいの？ 【席数 132 名】 ～生活に結びつく教育実践～ 井上 賞子 (松江市立意東小学校) 自分が子どものころ持っていた特別支援学級のイメージは、「いつも畑仕事や体力づくりをしている」でした。もちろん、それは偏見でしかなく、正しい理解をしていなかったことについては申し訳ない気持ちでいっぱいですが、「あの子どもが自分に必要な学習をしている姿」に見えなかったという事実は重いのではないかと、今は思います。個に応じた支援ができる場だからこそ、「いいなあ」と言われるような楽しい活動や手立てを選ぶこともできます。わくわくしながら「今」から「将来」に向けて活用できる力をつけたり手立てを見つめたりすることを目指したいといつも考えています。 この時間は、そんな思いで行って来た取り組みをご紹介します。「学校ではできたけど・・・」で終わらない生活の力をつけていくことについて、参加の皆さんと考えていきたいと思っています。
3-2 Room 104	教育の中でキャリア教育はどう行われるべきか？ 【席数 84 名】 近藤 武夫 (東京大学先端科学技術研究センター) 学校教育での「キャリア教育」が想定している「キャリア」とは何でしょうか？また、障害のある若者たちにとって、一般的な「キャリア教育」は必要十分なものと言えるでしょうか。多様な障害のある若者たちが、大学進学を目指したり、専門性を身につけたり、卒後に労働社会に参加し、キャリアを得ていく上で、教育段階から必要となることについて考えます。
4-2 Room 555A	キャッシュレス時代の暮らし方 【席数 40 名】 巖淵 守 (早稲田大学) スマホや IC カードで支払いをする人が増えています。キャッシュレス化により、計算が苦手、お金の出し入れが難しくても、正確な支払いが簡単にできるようになりました。キャッシュレス化が先行する世界の国々では、やりとりされる情報が、電子マネーから日常的な活動や医療情報にも広がり、個人のニーズと社会的サービスの効果的なマッチングが可能となっています。このセッションではキャッシュレス時代を支えるテクノロジーを解説しながら、これから起こりうる暮らしや学びの変化について考えます。
5-2 Room 501	知的障害の人とのコミュニケーションの糸口をどのように見つけるか？ 【席数 84 名】 青木 高光 (独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所) 言語理解や意思表出に困難がある人とのコミュニケーションについて、AAC オンデマンドを参考にしながら考えていきます。知的障害のある人たちが、日々どんな困難を感じているのかを「理解の支援」「構造化と視覚化」「表出の手段」などの観点から整理し、コミュニケーションを取りやすい環境作りのための基本を考えます。VOCA やタブレットなどのテクノロジーを活用したコミュニケーション支援についても、具体的な事例を通してその良さや留意点を学びます。
6-2 Room 554	肢体不自由のある人の 1 日 【席数 83 名】 吉成 亜実・前川 智秋 奥山 俊博・赤松 裕美 (東京大学先端科学技術研究センター) 自宅や病院のベッドの上で長い時間を過ごす人はどんな生活を送っているのでしょうか？2人の当事者の人にオンラインで登壇してもらい語ってもらいます。 テクノロジーの発達で彼らの生活を大きく変えていますが、我々の気づかない様々な制限が彼らの生活にあることが見えてきます。
7-2 Room 555B 【自主セミナー】	視線入力訓練アプリ EyeMoT によるアセスメントから学習利用までの活用テクニック 【席数 40 名】 伊藤 史人 (島根大学) 視線入力装置の活用により、スイッチやタブレット操作が困難な障害当事者でも能動的な機器操作が可能になった。コミュニケーションのみならず学習支援にも活用できるが、アセスメントから訓練まで楽しく行うのが重要である。視線入力訓練アプリ EyeMoT は、成功体験を積極的に体験させられ、豊かなカスタマイズ性によりアセスメントから学習支援にまで対応する。本自主セミナーでは、EyeMoT による学習支援までの活用について報告する。

12:10 - 13:10

<p>Room 510 【企業セミナー】</p>	<p>特別教育現場における マイクロソフト製品の活用シナリオ 【席数 132 名】 日本マイクロソフト 株式会社</p> <p>私たちは、お客様がマイクロソフトのテクノロジーを使う事により実現する成果が様々なところに波及し、良い影響を及ぼすことを目指しています。これまで多くのお客様に マイクロソフト 製品をご利用いただき、その事例から更に効果が波及しています。特別支援教育の現場における授業や日常業務にもマッチする事例がマイクロソフトには豊富にあるので、皆様にご活用いただけるシナリオをデモを用いながら紹介します。</p> <p>*昼食は各自お持ちの上参加ください</p>
<p>Room 555A 【企業セミナー】</p>	<p>プログラミング超入門! 【席数 40 名】 日本マイクロソフト 株式会社</p> <p>Microsoft は「特別支援教育におけるプログラミング活用」をサポートしています。本セミナーではその取り組みについて説明させていただくとともに、Microsoft のプロのエンジニアが「プログラミングの基礎の基礎」を Live デモを交えながら超わかりやすく解説します。来年度から始まるプログラミングの授業への導入に向けて不安を感じられている教員や自治体の皆さま、ぜひご出席ください! (プログラミング開発環境に micro:bit と MakeCode を使います)</p> <p>*昼食は各自お持ちの上参加ください</p>

13:10 - 14:40

<p>1-3 Room 509</p>	<p>読み書きの苦手な子どもたちへのテクノロジーの活用【前半】 【席数 88 名】 平林 ルミ (東京大学先端科学技術研究センター)</p> <p>タブレット、スマホ、パソコンなど身の回りにあるテクノロジー (アルテック) を活用することで読み書きの苦手を補助することが出来ます。ここでは様々なアプリを事例とともに紹介し、理解を深めてもらいます。</p> <p>*SENS 講習をご希望の方は、午後全ての時間を受講することで、ポイントが付与されます。</p> <p style="text-align: right;">【午後】S.E.N.S ポイント対象セミナー 2</p>
<p>2-3 Room 510</p>	<p>IQ や心理検査による能力評価から教師による介入・観察を活用した教育へ 【席数 132 名】 河野 俊寛 (金沢星稷大学)</p> <p>検査は客観的な評価のための重要な手がかりになります。しかし、検査を実施するということは、すでに何らかの困難が出てきている状態だ、ということでもあります。教育の場では、学習に遅れが出ている状態の時に、検査を実施してその原因を明らかにしようとしします。もちろん、検査結果から支援方法を考えることも有効です。しかし、学習に遅れが出る前に、支援を行いながら学習が遅れる原因を探ることはできます。そのようなアプローチに RTI モデルがあります。このセミナーでは、RDI モデルについて説明します。</p>
<p>3-3 Room 104</p>	<p>働きにくい人の特徴と彼らへのアドバイス 【席数 84 名】 三宅 琢 (株式会社 Studio Gift Hands)</p> <p>本講義では病気や障害より困難さを中心に環境調整をする産業医の働きの本質と具体的な健康管理の方法を紹介します。産業保健の現場では作業環境管理、作業管理、健康管理、統括管理、労働衛生教育の 5 管理を基本に職場環境の管理を行います。障害がある労働者においても基本原理は同じです。また障害者ならではの合理的配慮のあり方は、すべての労働者の働き方改革につながる重要な気づきの機会であることを参加者との対話を通して学びます。</p>
<p>4-3 Room 555A</p>	<p>AI やビッグデータは我々の暮らしをどう変えるか? 【席数 40 名】 巖淵 守 (早稲田大学)・ゲストスピーカー: 大島 友子 (日本マイクロソフト 株式会社)</p> <p>急速な発展を遂げる AI の技術を、人々の支援に応用した製品が多数登場してきています。AI は、ビッグ (大量の) データと組み合わせることで、その学習精度を高め、機能によっては人間をも凌ぐ能力を発揮することが期待されています。このセッションでは、AI を利用した支援技術の例を紹介しながら、AI を利用するための基本知識を解説し、これからの暮らしにおける活用について考えます。</p>
<p>5-3 Room 501</p>	<p>自閉症の人とどのように会話の場を作るか? 【席数 84 名】 坂井 聡 (香川大学)</p> <p>音声はあるが、エコラリアなどが強く機能的に会話できない自閉症の人。こだわりが強く話題が広がらない人。彼らとの会話をどのように広げて行けばいいのか、事例を交えながら解説します。</p>

6-3 Room 554	発達障害の人の生きにくさ 岡 耕平（滋慶医療科学大学院大学） 発達障害のある人の生きにくさは、周りの人が考える「こうあるべきだ」という捉え方と、自分自身で「こうあるべきだ」と思い込むことによって、本来自分が最も楽に生きられるスタイルから離れていってしまうことが問題です。しかし、それを自覚することもまた難しいことです。どうすればそこに気づけるのか？どうすれば自分自身を解放することができるのか？講師のこれまでの支援経験や子育ての失敗談も含めて分かりやすくお伝えします。	【席数 83名】
7-3 Room 555B 【企業セミナー】	魔法のプロジェクト ソフトバンク 株式会社 魔法のプロジェクトは、ソフトバンク株と東大先端研が主催する障がいや特性などにより学びにくさがある児童・生徒の困りをテクノロジーを加えた指導で改善していく実践研究プロジェクトです。毎年、公募から採択された全国の学校と1年間の実践研究を一緒に今年で10年目を迎えます。これまでの実践研究の中から選りすぐりの実践事例をご紹介します。	【席数 40名】

14 : 50 - 16 : 20

1-4 Room 509	読み書きの苦手な子どもたちへのテクノロジーの活用 【後半】 平林 ルミ（東京大学先端科学技術研究センター） タブレット、スマホ、パソコンなど身の回りにあるテクノロジー（アルテック）を活用することで読み書きの苦手を補助することが出来ます。 ここでは様々なアプリを事例とともに紹介し、理解を深めてもらいます。 *SENS 講習をご希望の方は、午後全ての時間を受講することで、ポイントが付与されます。	【席数 88名】	【午後】S.E.N.S ポイント対象セミナー 2
2-4 Room 510	養護学校の卒業生の今から教育を考える 坂井 聡（香川大学） 中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター） パソコンが普及し始めた1990年頃。パソコンやVOCAの障害のある子ども達への導入が特別支援学校でも試みられるようになってきた。 その頃、機器を使い始めた子ども達が今どのような生活を送っているのでしょうか？今の彼らを取材し、当時のビデオと比較しながら特別支援教育とは何かを考えます。	【席数 132名】	
3-4 Room 104	産業医から見た組織の在り方 ～ユニークな人を束ねる組織とは！？～ 三宅 琢（株式会社 Studio Gift Hands） 障害がある労働者が就業環境に合わせて生き生きと働けるように適切な合理的配慮を行うことは重要です。一方で合理的配慮の次元を超えて業務を構造化し、切り出すことで障害特性に合わせた働き方や採用を提案する企業が存在します。本講義では障害がある労働者が生き生きと働ける組織作りの成功事例を元に、参加者のみなさんとともに対話を通して、多様性が生かされる組織文化の作り方やあり方について考えてみたいと思います。	【席数 84名】	
4-4 Room 555A	パソコンやスマホのアクセシビリティ 巖淵 守（早稲田大学） 奥山 俊博（東京大学先端科学技術研究センター） パソコンやスマホには、障害のある人の利用を可能にするためのアクセシビリティ機能が標準で備わっており、その内容は年々進化・洗練されてきています。このセッションでは、代表的なアクセシビリティ機能を解説するとともに、最新版のOSに加わった新たな機能を紹介いたします。	【席数 40名】	
テーマ 5-4 Room 501	重度重複障害のコミュニケーション能力を把握するには？ ～新しいチェックリストの紹介～ 佐野 将大・谷口 公彦（香川県立高松養護学校） 赤松 裕美（東京大学先端科学技術研究センター） 「子どものことを知り、楽しみながら生活を描いていく」このようなことがコミュニケーション支援の目指すものかもしれません。子どもを中心に支援を進めるには、発達や認知に関する知識、その確認のための技術が不可欠です。私たちの実践グループでは、この観察を大切にしながら、子どもたちの生活を見据えた教育実践を検討し続けています。実践を通して分かってきたことを皆さんと共有し、新しいコミュニケーション支援の姿を描いてみたいと思います。	【席数 84名】	
テーマ 7-4 Room 555B 【自主セミナー】	オンライン動画を活用した支援機器研修方法の開発 金森 克浩（日本福祉大学） 特別支援教育におけるICT活用では、特別な入力装置や専用のソフトなどの使い方を知り、授業で活用して指導することが必要である。そこで、教材やICT機器の使い方を学ぶ為にオンライン動画の開発を行った。オンライン動画は自宅にいても視聴可能であり、ユビキタスな学習システムとなる。また、研修を受けた後の復習としても活用しやすい。本報告ではオンライン動画を活用して行う研修方法について、実際に体験しながら紹介する。	【席数 83名】	